

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
北九州市	猿喰地区(猿喰集落)	令和4年3月25日	年 月 日

### 1 対象地区の現状

① 地区内の耕地面積	28.9ha
② アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	20.0ha
③ 地区内における66歳以上の農業者の耕作面積の合計	17.6ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	4.5ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	5.9ha
④ 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	7.6ha
(備考)	

### 2 対象地区の課題

農家の高齢化が進み70歳以上が6割(R3.4.1 現在)という状況。そのような中で優良農地を維持するため、これまで行ってきた地域の担い手と農作業を分担して効率的に作業を進める手法の継続的な維持が課題。また、集約が進む地域農業を支える中心的な担い手への継続した支援が必要となっている。
---

### 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

① 農業委員等地域の役員を中心に構成する猿喰農地利用協議会による作業の効率化を図る農地維持策の継続と新たな課題(担い手への集約化)の検討と地域振興計画の策定。
② 地域の農業を支える新たな担い手の確保
③ 畦畔除去等効率的な規模拡大手法や農地の耕作条件整備の検討と実施

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を 営む範囲
認定 農業者	中心経営体	水稲	6.4ha	水稲	14.0ha	
合計	1人		6.4ha		14.0ha	

#### 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

##### 【農地の貸付等の意向】

集落内農家は可能な限り水稲作を継続する意向があるが、高齢化が進んでおり作業の省力化と効率化が最大の課題である。そのため、農地の貸し借り、農作業受委託の両面をうまく活用しながら担い手への農地の集約をさらに進めていく。  
今後、貸付意向の農地が増えてくることが見込まれるため農地の受け手の育成と支援が急務となっている。

##### 【農地中間管理機構の活用方針】

農地の貸し借りについては、集落内に効率的な貸し借りや作業受委託について協議を行う場(猿喰農地利用協議会)を設けており今後も当協議会を中心に実施していく。  
また、農地中間管理機構の活用についても協議会の中で検討していく。

##### 【基盤整備への取組み方針】

新田地区では基盤整備は行われているが一筆の規模が小さいため、今後畦畔除去を含めた大面積化を検討していく。併せて耕作条件整備のため排水対策を実施する。

##### 【作物生産に関する取組み方針】

水稲作を主体として取り組む。その中で特産品づくりの一環として酒蔵と連携した酒米づくりに継続して取り組んでいく。

##### 【鳥獣被害防止対策への取組方針】

イノシシ被害を防止するためワイヤーメッシュ等の防止対策を集落全体の取組みとして強化する。また、水田で問題になっているジャンボタニシの除去を地区内農家で行っており、今後も継続して実施する。

##### 【災害対策の取組方針】

大雨時のひ門管理を共同で行っていく。

#### (参考) 農地の貸付け等の意向(任意記載事項)

農作業受委託の希望調査を今後も継続して行い意向を確認していく。  
また、畦畔除去による水田大規模化の取組を進め、地域の担い手の規模拡大を促進する。